

秋植え夏ギク、春植え夏秋ギク

作型

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
季咲栽培	—————						□□□	△	—————	◎	—————		
電照栽培	* ———		◎	×	—————			□□	△	※	—————		

△：台狩り ◎：定植 ×：ピンチ □□：開花期

*：親株ピンチ ※：親株仮植

栽培のポイント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 排水良好・日当たり良好な圃場を選定する。 2. 定植苗は揃いの良いものを定植する。 3. 病虫害防除はこまめに、発生初期の防除に重点をおく。 4. 品種選定やエスレル処理、電照などで計画的な作付けを目指す。
---------	---

1. 秋植え夏ギク

月 旬	管理作業	管 理 内 容
8月下旬～ 10月上旬	育苗と定植 育 苗	<ul style="list-style-type: none"> ・親株の台刈り20日位前にそ菜3号を2kg/30m施用し、軽く土寄せし親株に勢いをつけておく。また、乾燥していたら灌水を行う。 ・10aあたり定植本数を15,000本とするためには、土寄せ苗として約4,000株は必要である。 ・土寄せ後10～15日で発根する。それを親株からとって仮植し、細根を出させる（仮植する場合）。 ・定植適期は10円玉程の根張りの時である。 ・この作型では春に冬至芽を立たせて収穫する物であるから冬至芽が多く付くような苗を作らなければならない。
	圃場の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・定植圃場は定植の少なくとも2週間前には細かく耕起し、土改剤を施用し、畝を立てておく。 ・畝は天幅100cm、通路30cmとし、出来るだけ高畝にして排水がよい状態にしておく。また、必ず除草剤を散布しておく。
	定 植	<ul style="list-style-type: none"> ・定植苗はかき苗もしくは土寄せ苗を使い、2条植えとするが、10月10日までに定植作業は終了させておく。定植は早くても遅くても良くなく、適期に行うことが重要である。 ・定植後も必ず病虫害の防除を行い、特にサビ病、スリップス、ハダニは次年度に持ち込まないようにする。

<p>3月上旬～ 5月中旬</p>	<p>定植後の管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・雪融けと同時に遮光率30%程度の被覆資材を畝全面に被覆する。また芽肥としてそ菜3号等を畝の中央に2kg/30m程度施す(そ菜3号は新芽にかからないよう慎重に施す)。なお、被服資材は曇天時の暖かい日(4月中旬頃)には取り除く。 ・古株は前年度からの病害虫がついていることが多いので、新芽が伸びない内に地際からハサミで取り除き、焼却処分する。 ・また、芽肥として3月上旬に適量施肥し、追肥として4月中旬に残りの肥料を施肥して土入れをしておく。畝の中央に3月下旬(7月咲の場合)と、4月上旬(8月咲の場合)に肥料を撒いて、軽く土寄せなどしておく。(春元肥とする。) ・ネットは早めに張っておき、順次上げていく。また、キクの草丈が30cm位に伸びるまでに、中輪で5～6本、コギクで6～7本が1マスに入るように間引いておく。(間引きは2回程度に分けて行うと良い)その時に、極端に太い物や細い物を間引くようにする。 ・キクの根の寿命は約100～150日であるため、秋に定植した親株の根も春には活力が低下する。そこで開花の80日前までに新根の発生と下葉の枯れあがりを防ぐため、土寄せを行う。
<p>6月上旬～ 6月下旬</p>	<p>脇芽かき 摘蕾</p> <p>ビーナイン処理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中輪ギクの脇芽かきは品種の特性を良く理解して計画的に行い、特に脇芽かきが遅れると傷口が大きく残るので、早めに行う。 ・白の中輪ギクは必ず雨除けし、降雨による花の痛みをなくす。 ・この作型では生育の後半期が梅雨時期となっているため、排水対策が充分に行われていないと、根腐れや梅雨後の葉の黄化がおきたりする。そこで梅雨前には停滞水が畝間に溜まらないように排水溝を設けておく。 ・雨が降っても、すぐに水が引くように額縁に深めの明渠を掘っておくことも一策である。 ・7月下旬咲以降の品種はピンチにより開花揃いと品質が良くなるものがある。その場合には、ピンチ時期は開花の100～110日前に本葉4～5枚で行う。なお、ピンチをしたものは追肥を2割位多く施用する。 ・蕾が見え始めたら、ビーナインの800倍液を1畦30mあたり5割上位5葉に散布する。なお、花首の伸びやすい品種は蕾が小豆粒大の時も散布する。

生育期	病虫害防除	<ul style="list-style-type: none"> ・定植後の農薬散布は週1回は必ず行う。散布時間は早朝か夕方がよい。散布量は10aあたり100～200Lとし、散布後30分で葉が乾くようにする。 ・白さび病、黒さび病が発生したときは治療剤を使用するが、同一系統の農薬の連用はしない。 ・殺虫剤も同一薬剤の連用は避け、年間の使用回数を厳守する。 ・アブラムシ、ダニ、オオタバコガ等の害虫については薬剤のローテーションが重要で、特定の薬剤を連用しない。 ・特にスリップスについては、蕾の膜切れ前から3日おき程度に薬剤散布する。夕暮れの散布が効果大。 ・また、害虫は圃場周りの畦畔や畝間の雑草からも侵入してくるので、常に圃場周りはきれいにしておく。 ・ハダニの防除は噴き上げ散布を基本とし、葉裏に薬剤がよくかかるようにする。また、自分の圃場でのハダニについての抵抗性についてよく把握し、効果のある薬剤を散布する。
開花期	収穫と選別	<ul style="list-style-type: none"> ・切り前は3～4分咲とするが、出荷する市場の情報を考慮しておく。 ・夏場は早朝の収穫が原則である。収穫後必ず2時間は水あげをすること。

